



■ 自転車を取り巻く市の状況と着目点

【三木市の状況】

- ・ 自転車利用が多い高校の通学路の整備事業に着手
 - ・ 外国人労働者の急増（外国人労働者の主要交通手段⇒自転車）
 - ・ 自転車専用通行帯などの自転車通行空間の整備について未対応
- 【整備に当たっての着目点（目的）】
- ・ 自転車通学の中高生及び自転車通勤者、歩道・路肩を通る通行者の安全確保



自転車通勤する外国人労働者

自転車通学する高校生

■ 計画策定までの進め方

三木市自転車ネットワーク整備計画検討協議会

- 1 現状整理と自転車利用状況
 - 2 ヒヤリ・ハット地点の把握（アンケート調査）
 - 3 課題の整理と基本方針の決定
 - 4 ネットワーク路線の選定
- ← 有識者による意見聴取
計画策定

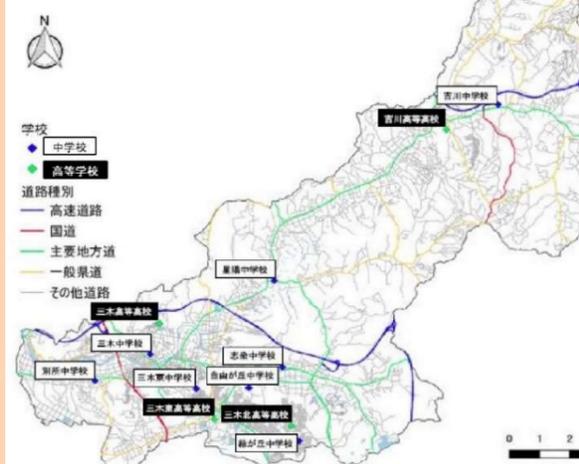
【協議会メンバー】

- ・ 三木警察署 交通課長
- ・ 兵庫県 道路保全課長、道路街路課長及び加東土木事務所 所長補佐、道路第2課長
- ・ 三木市 都市整備部長及び関係課長（道路河川課、プロジェクト推進課、用地管理課、生活環境課及び企画政策課）
- ・ 三木市教育委員会 教育施設課長

■ 現状整理と自転車利用状況

① 市の交通と公共施設等の立地

- ・ 高速道路が2本、鉄道が市の南部に1本あり、市立公民館等は市内全域に点在している
- ・ 主な自転車通学者となる中学校・高等学校は市の南側に多く、人口集中地区もこの辺り



中学校・高等学校の所在地

② 自転車関連の事故

- ・ 三木駅～三木高等学校や緑が丘駅～三木北高等学校間の路線等で事故が発生
- ・ 自転車関連事故の自転車利用者の年齢層は、24歳以下が多い

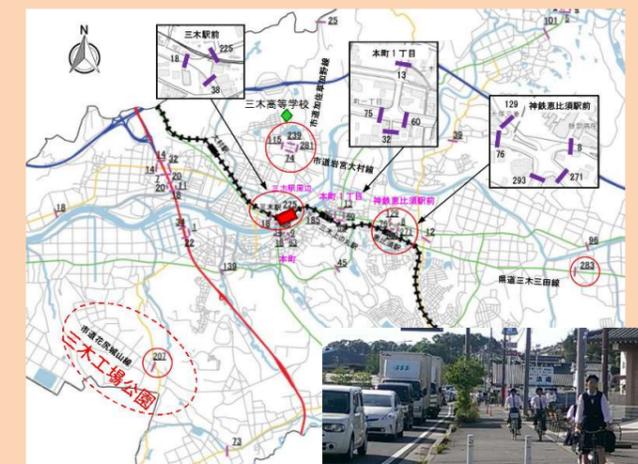
表 自転車関連交通事故の発生場所（代表路線）

エリア	路線
三木駅・大村駅・恵比須駅周辺	県道加古川三田線、三木穴栗線、三木三田線、正法寺三木停車場線、市道福井加佐線、高校線、岩宮大村線
志染駅・広野ゴルフ場前駅・緑が丘駅周辺	県道神戸三木線、市道自由が丘緑が丘線、緑が丘志染線



③ 自転車交通量

- 市内で自転車交通量が多い箇所（200台以上/12h）
- ・ 三木三田線（志染バイパス）
 - ・ 神鉄恵比須駅前交差点
 - ・ 三木駅周辺
 - ・ 三木高等学校周辺
 - ・ 三木工場公園



自転車交通量



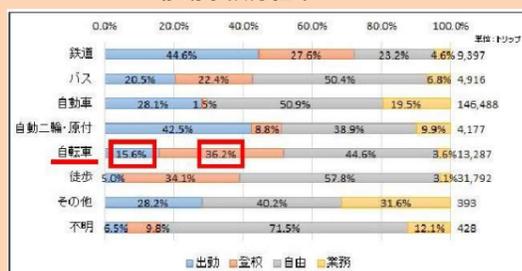
恵比須駅前交差点周辺

④ 自転車の利用状況

- ・ 県と比べると自転車利用の分担率は高くない
- ・ 自転車利用の目的は、通勤・通学利用が過半数を占める



移動手段分担率



自転車利用の目的

■ ヒヤリ・ハット地点の把握（アンケート調査）

① 通学（中学校、高等学校）

- （三木駅の周辺）
- ・ 三木駅から三木高等学校への道路や同校から東側へ向かう路線等で危険と感じている
- （恵比須駅周辺）
- ・ 恵比須駅から三木東中学校の間の道路等で危険と感じている

表 自転車利用時に危険を感じる路線（代表路線）

エリア	路線
三木駅・大村駅周辺	県道三木穴栗線、市道福井加佐線、高校線、岩宮大村線
恵比須駅周辺	市道えびす市住線、えびす上の丸線、えびすさつき台線、芝野岩宮大塚線



② 通勤・通学（鉄道駅）

- ・ 三木駅及び志染駅、緑が丘駅で調査を実施
- ・ 自転車利用時に危険を感じるのは、三木駅周辺は県道沿い、志染駅や緑が丘駅周辺は細街路が多くなっている

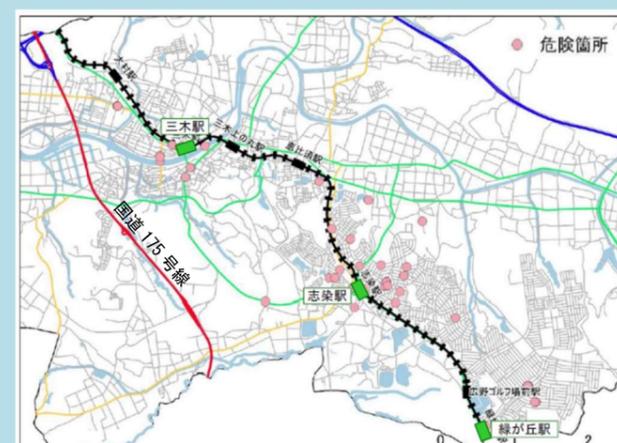
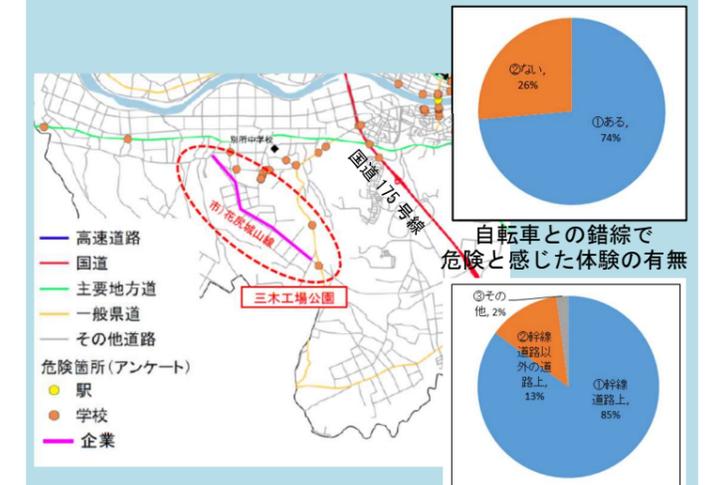


図 危険と感じる場所（駅アンケート）

③ 通勤（三木工場公園）

- ・ 自転車との錯綜で危険と感じた体験があるとの回答が7割強
- ・ 危険と感じた場所では、「幹線道路上（市道花尻城山線）」が8割強



危険と感じた場所



■ 課題の整理と基本方針

課題

自転車通勤・通学に対応した自転車通行空間の整備

市内の自転車利用は通勤や通学目的の利用が多いことから、通勤・通学時の安全性及び快適性を確保するための自転車通行空間整備が必要です。

自転車関連事故の多い路線(エリア)の安全対策

事故の発生件数が多い路線(エリア)やヒヤリ・ハットの箇所を対象とした安全対策を検討する必要があります。

主に中高生の自転車利用者に対する交通ルール、マナーの周知

市内の自転車関連事故は、中高生を含む24歳以下の年齢層が最も多くなっていることから、自転車ルールやマナーの周知・徹底を図る必要があります。

基本方針

- 自転車の通行空間を整備することにより、自転車はもちろんのこと、歩行者や自動車等の全ての通行者の安全性・快適性の向上を図る
- 自転車利用者の交通安全意識の向上を図る

■ 自転車ネットワーク路線

① 路線選定の考え方

・国ガイドライン※の技術検討項目から本計画における選定要件を定め路線を選定

ガイドラインの技術検討項目	本計画における選定要件
① 地域内における主要路線としての役割を担う、各種拠点を結ぶ路線	① 三木市内の駅、中学校・高等学校、公共施設など、自転車の利用が集中する各種拠点を結ぶ路線
② 事故が多い路線の安全性を向上させるための自転車通行空間を確保する路線	② 三木市内で自転車関連事故の多い路線、アンケートにおいて自転車利用時のヒヤリハットの経験があると報告された地点・路線
③ 自転車通学路の対象路線	③ 学校アンケート等で明らかになった、中学校・高等学校の生徒が自転車通学によく利用する路線
④ 地域の課題やニーズに応じて自転車利用を促進する路線	④ 学校・駅・企業アンケートの結果から、自転車と自動車、歩行者の錯綜が生じている路線
⑤ 自転車利用の増加が見込まれる路線	⑤ ひょうごサイクリングモデルルートについて、三木市内における該当路線
⑥ 既に自転車通行空間が整備されている路線	⑥ 三木市内では自転車通行空間として既に整備されている路線はない。
⑦ 自転車ネットワークの連続性を確保するために必要な路線	⑦ 前述(1)～(6)に当てはまる路線の連続性を確保する路線

※「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」国土交通省

② 優先的に計画を策定するエリア

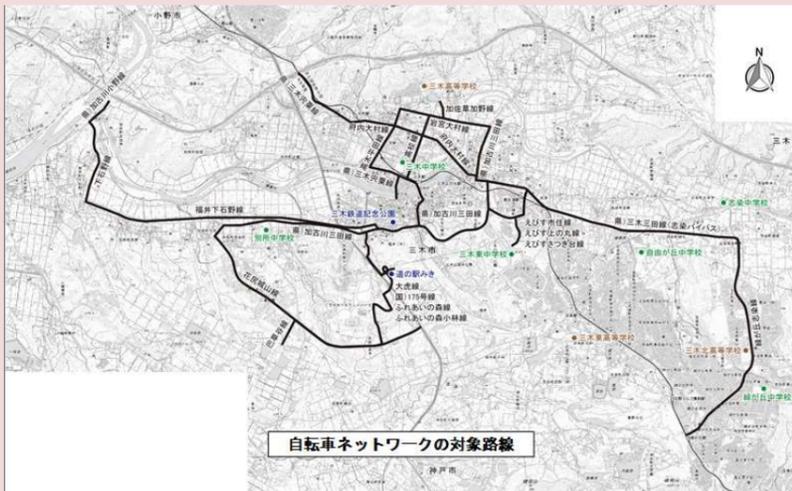
・自転車の交通量や自転車関連の事故件数が多い黄色で示す範囲を優先的に計画を策定するエリアとする



優先的計画策定エリア

自転車ネットワーク整備計画路線の選定

自転車ネットワークの対象路線
選定要件から対象路線を抽出



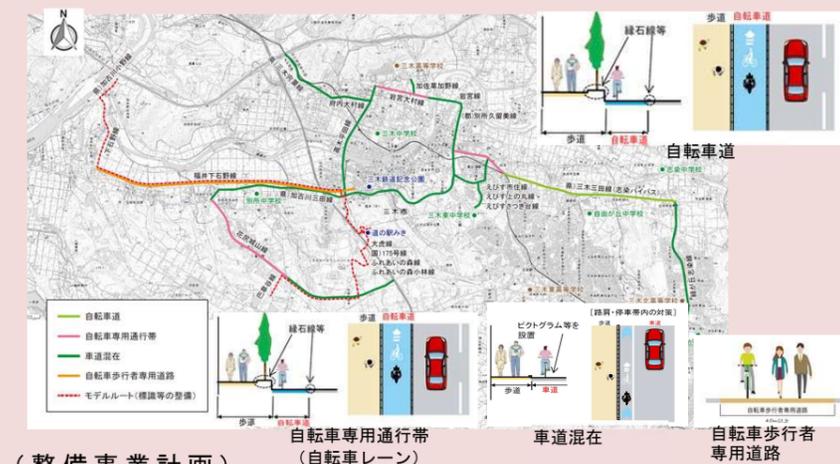
対象路線をもとに、現状の交通量や道路状況などを勘案し、次の整備計画路線を選定

自転車ネットワークの整備計画路線



整備形態計画 及び 整備事業計画

(整備形態計画)
道路幅員や自動車等の交通量、規制速度から整備形態を設定
・自転車道：県道三木三田線(志染バイパス)
・自転車専用通行帯：市道岩宮大村線(三木高校周辺)、市道花尻城山線(三木工場公園 幹線道路)等
・車道混在：県道三木穴栗線、市道加佐草加野線等
・自転車歩行者専用道路：市道福井下石野線



(整備事業計画)
・今後10年間で整備を目指す路線を設定(赤線)
・ひょうごサイクリングモデルルートは標識等の整備を進める



■ ソフト施策の実施

- 高等学校や事業所に対する啓発施策を拡充
- 自転車走行空間の整備に合わせ広報媒体を活用した通行ルールの周知が必要

交通安全に係る主な施策

施策名	実施内容、実績(令和元年度)
交通安全教室	・市立小学校及び特別支援学校 合計17回 ・市立中学校 合計7回 ・市内こども園及び幼稚園等 合計18回 ・高齢者サロン等 合計1回 ・事業所 合計1回
交通安全運動	年2回(春、秋)
交通事故防止運動	年2回(夏、年末)
自転車安全利用推進運動	・街頭キャンペーンや広報紙等の広報媒体を活用した自転車安全適正利用の広報活動 ・自転車利用者に対する通行ルールと「自転車安全利用五則」を活用した啓発実施 ・自転車保険加入の義務化に伴う周知徹底等



広報媒体例(啓発チラシ 国土交通省)

■ 計画の見直し及び今後の課題

- 計画の見直し
○PDCAサイクルにより計画を適宜確認し、社会情勢の変化等を踏まえて、計画の見直しを行う
- 今後の課題
○小中学校の統廃合やコンパクトなまちづくりの推進
○本計画の対象外である路線について、自転車需要の多い路線へ対策
○「自転車活用推進計画」の策定に向けて取り組む

